

2021 年 11 月 17 日(水) ハコラク 12 月号 掲載

医療の現場から『全脊椎レントゲン撮影について』

診療放射線技術科 小西 秀則 診療放射線技師

全脊椎レントゲン撮影について

「大きく息を吸って、止めてください」。健診などで心臓や

肺の状態を確認するための胸部レントゲン撮影や、体のどこかを強くぶつけた際に骨折しているかを確認するためのレントゲン撮影、これらが一般的なレントゲン撮影のイメージかもしれませんが、そんなレントゲン撮影

ですが、背骨を1枚の画像として撮影することができない「全脊椎撮影」と言われるものがあります。これは頸椎・胸椎・腰椎と3回に分けて撮影し、それらを繋ぎ合わせ、1枚の背骨の画像を作るものです。この全脊椎撮影は、ロコモティブシンドロームの診断の1つになりうるとして検討が進められています。ロコモティブシンドロームとは、加齢により骨・筋肉・神経の機

能が低下し歩行などの移動が困難になる状態を指します。

突然ですが健康寿命という言葉をご存じでしょうか？これは介護や支援を受けずに日常生活を送れる状態を表した年齢です。日本人の健康寿命は約75歳となっており、平均寿命と健康寿

命の差が約10年あることが分かりました。そこで政府は2023年にはロコモティブシンドロームの国民への認知度を80%まで上昇させ、約10年の開きがある「平均寿命」と「健康寿命」との間隔を短縮することを目標としています。全脊椎撮影をする

ことで、背骨の変形や曲がり具合などを確認することができ、背骨の変形などにより腰に痛みが出ることや、バランスを保とうとして膝や股関節に負荷が掛かり変形や痛みが生じます。そのため、ロコモティブシンドロームの診断に背骨の状態を確認する全脊椎撮影が重要であると示唆されているのです。



函館中央病院

診療放射線技術科
診療放射線技師

小西 秀則 さん

ロコモティブシンドロームはできるだけ早い段階で発見し、適切なリハビリや治療をすることで進行を抑えることが可能です。われわれ放射線技師はみなさんのイメージしているレントゲン撮影のみだけではなく、政府が掲げている目標の一助となるようなレントゲン撮影もしています。



函館中央病院

函館市本町33-2

☎0138-52-1231 (代)

<http://www.chubyu.com/>

■診療科目／
内科、消化器内科、腫瘍内科
循環器内科、小児科、外科
整形外科、形成外科
心臓血管外科、皮膚科
産婦人科、耳鼻咽喉科
歯科口腔外科など全26科目

■受付時間／
8:30～11:30、13:30～16:00
※土曜は午前のみ。診療科や
時間帯によっては要予約。

■休診日／日曜・祝日・年末年始

